

歴民だより

歴史民俗資料館

令和2年度 7月号 No.81

郷土の先人紹介

木曾三川大改修の道を開いた わきさか ぶんすけ 脇坂 文助



▲脇坂文助の肖像画

木曾三川は、大昔より暴れ川として知られ、洪水を幾度となく引き起こしてきました。江戸時代には、幕府より命じられた薩摩藩が宝暦治水（1754～1755年）を行いました。洪水が無くなることはありませんでした。

江戸時代の天保13（1842）年に大野村（現、安八町大野）で生まれた脇坂文助は、輪中だけでは防げない、水害の恐怖、被害の甚大さを学びました。

床屋、戸長（※1）を務めた後、岐阜県議会議員議長になり、政府に木曾川水系の河川の本格的な治水対策をお願いしました。文助のこの行動が、明治20（1887）年、オランダ人のヨハネス・デレーケ技師たちの設計による木曾三川大改修工事が始まるきっかけとなりました。

郷土安八町を水害から守るために、一生涯、全財産を投じて活躍した文助をたたえ、顕彰碑が役場敷地内に建てられています。

※1 戸長・・・明治時代前期に区町村に設置された行政事務の責任者のこと。現在の町村役場の前身にあたる。

ハートピア安八
- 歴史民俗資料館 -

住所：岐阜県安八郡安八町氷取30
お問合せ：0584-63-1515